

第 553 回 例 会

25年7月19日

本日のプログラム

- ・夜例会(直前会長・幹事&ガバナー補佐 慰労会)
 - 時間 18:30~
 - 場所 イタリアンレストラン「ベラ コスタ」
(リーガロイヤルホテル アネックス 7階)

次回(7月26日)のプログラム

- ・ソング 「日も風も星も」 (P10)
- ・卓話 笹田 隆志 会員
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 3階「飛鳥の間」

先週(7月12日)の例会報告

■会長の時間

【十二支の意味】

むかしから親しまれている「十二支」は、一年十二ヵ月を一月から順にあらわした数詞である。次のように表記される。

子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥 (し ちゅう いん ぼう しん し ご び しん ゆう じゅつ がい)
こうした数え方を文盲の庶民に教えるために、わかりやすく動物にあてはめ、

鼠 牛 虎 兎 竜 蛇 馬 羊 猿 鶏 犬 猪 (ネ ウシトラ ウ タツ ミ ウマ ヒツジ サル トリ イヌ イ)
としたといわれている。中国の文字「漢字」は表意文字といわれ、それぞれ意味をもっている。“物”の形からできているのであるが、十二支も例外ではない。二、三例をあげてみると、二月の「丑」は、草々の若芽が地中から出てくる姿の変形である。三月の「寅」は、若草が地中に根を張る姿をあらわした字である。八月の「未」は、稲穂が実り、根がしっかりとついた姿が変形した字。九月の「申」は、柿が枝にたわわに成っている姿をあらわした文字である。十月の「酉」は酒をかます壺の姿が変形したもの。この月に収穫した新米によって酒をつくることから「酉」が十月の意味になった。このように十二ヵ月をあらわす十二支の文字は、植物の成長と結実に深い関係をもっている。というより草花や植物の生態を表現したものといったほうが正確かもしれない。植物たちは次のような生命の盛衰を繰り返している。

- ①種子……自分の生命に適合した季節を持つ
- ②萌芽……土中で殻を破り生命が始動する
- ③屈伸……根と茎とが上下に向かって伸びる
- ④上伸……双葉が土の上に顔を出す
- ⑤繁茂……枝や葉を伸ばす
- ⑥開花……生命力が極限に達して花を咲かせる
- ⑦受胎……交媒して結実の準備をする
- ⑧衰退……花を散らし、葉や枝の伸びを止め、結実に全力をそそぐ
- ⑨落葉……結実した生命の種は成熟していき、葉はしだいに働きを弱め、落ちていく
- ⑩死滅……種はしっかりと堅い外皮のなかで、成熟の極に達する
- ⑪閉蔵……幹や枝は活動を休止する
- ⑫休絶……すべての生命力は減び、種だけが静かに翌年の活動の季節を待つ

この十二の行程を十二支にあてはめてみるとよい。それぞれびたりと一致する。

植物が種類によって芽をふく季節、花を咲かせる時期がそれぞれちがうように、人間もまた一人ひとり、花を咲かせるとき、結実する年齢がちがう。もっとも生命力が充実する時代がある。その秋(とき)に大きな実を成らせるために、おいにあらゆる栄養をとって、準備をしておかなければならない。

【来客紹介】 2名

【出席報告】

25年7月12日(第552回例会)				
会員総数	出席免除会員	出席会員	欠席会員	出席率
32名	2名	23名	7名	76.67%

【幹事報告】

[メールBOXに配布]

- 1)第1回理事会報告
- 2)〈メール送信〉第2660地区例会日一覧

【回覧資料】

- 1)大阪府赤十字血液センター「血液センターニュース 2013夏」
- 2)ローターアクトクラブ「RAC People」「地区年次大会 記念誌」
- 3)他クラブより例会変更(年間)のお知らせ(13クラブ)

ニコニコ箱(7月12日)

秋山 千尋 =本日、当社の前期総会。アベノミクスの効果のせいか、ようやく先が開けて来ました。もう少し頑張らなくちゃ！

川上 大雄 =来週も休みます。スママセン！

河田 英子 =ちょっと嬉しいことがありました。

7月7日の七夕の日、次男の結婚式、披露宴が行われました。若い二人の幸せを心から願います。

三男のオックスフォード大学院の正式合格通知がきました。うれしいですが、心配も又あります！！

森本 良嗣 =「ごめんね、いたち君」で今日は卓話当番です。お耳汚します。ゴメンネ！

斧原 邦夫 =特別な暑さの今日此頃！体調今一步の為、自重に勉め度いと思います。皆さんもお大事に！

大屋 準一 =暑さのあまり雀がヤキトリになって串刺しで落ちて来ました。

名門ゴルフの参加者が不足しておりますので、是非ご参加 ご検討をお願いします。

豊島 秀郎 =暑くなり大変です。

【SAA報告】

ニコニコ箱	本日計 7000円	今年度合計 3292268円
-------	-----------	----------------

卓話(7月12日)

「ごめんね いたち君」 森本 良嗣 会員

この度は新会員さんも多くなっていますので、森本の自己紹介・仕事等について話しました。

駐車場経営の中で様々な事柄がありますが、テーマのイタチ君が場内にやって来ます。しかしこのイタチ「鳥獣保護法」により、保護されますので捕獲して勝手に処分できません。結果「いたち ごっこ」と言う遊びや、言葉があるように捕獲しては又、自然界に放してやり、それが又、街中に戻って来る。でも誰かが、イタチゴッコでもしなくては、地域にも・私にも影響します。いくら法律に則った行動ではありますが、人間として善か悪かと多少大げさに考えて居たとき、ネットで 大阪大学名誉教授 畑田耕一 先生が「教育とロータリーの4つのテスト」と言う文章を掲載されていました。それには、4つのテストを日常社会での判断基準として考えたとき、人として豊かに成れると感じました。真実かどうか・・・ロータリーっていいなあ・・・とつくづくと思ったんです。どうぞ皆さんも、例会や日々のこの「4つのテスト」を指標により良い指導者を目指して皆で唱和して参りましょう。

参考文献 畑田耕一先生 文章一部を以下に抜擢させて頂きました。

ところで、人間がいろいろなことを言い、あるいは、行うに当たって参照するべき判断の基準は、法律の様に既に決まっている外部基準ではなく、各個人が自分の中に持っている内部基準、すなわち、自分の中のもう一人の自分とも言える人間が示す判断基準である。したがって、各個人独自のもので、人により少しずつ異なるものではあるが、その違いがあまり大きいと、いろいろな意味で不都合が生じる。そのような事態を避けるためには、各個人の判断基準がある程度の一般性を持っていることが必要である。道徳の授業の目標は、そのような基準を一つに決めて教え込むのではなく、具体的な例を基に、判断基準の意義と必要性を学ばせ、生徒一人一人にとって独自で且つある程度の一般性を持つ基準を作り上げる力を養わせることである。ロータリークラブの会員が、日常の言行の評価のために使用することを推奨されている質問形式の基準である「四つのテスト」(参考文献2)をここに示す。この四つのテストには、人間が社会で生きていくうえでの善悪の判断基準が、ロータリアンのみならず一般の人々にも理解できるような形で、簡潔かつ的確にまとめられていると思う。

<四つのテスト>

言行は以下のことに照らしてから行うべし

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

<The Four-Way Test>

Of the things we think, say or do

- Is it the TRUTH ?
- Is it FAIR to all concerned ?
- Will it build GOOD WILL and BETTER FRIENDSHIP ?
- Will it be BENEFICIAL to all concerned ?

まず、「真実かどうか」は「嘘偽りがないかどうか」というような単純な解釈はせずに、もう少し深く考えて、「物事の原理・原則、根本原理に適っているかどうか」と理解するのがよいと思う。

「みんなに公平か」は、私的感情をあまりまじえずに、偏り無く対処している、いわば、太陽の様な存在か、という意味なので、「みんなに公正か」という方がよいのかもしれない。真実は、後で述べるように、時として信念の要素を含むことがある。それが相手を困らせることが無いような配慮も要ると言うことを、言外ににじませているとも言える。

「好意と友情を深めるか」は、自分以外の人や動植物やものと付き合うときの、ごく自然で基本的な対処の仕方であるが、ここではある程度の私的な感情がまざるのはやむを得ない。大事なことは、それが他を排除するものであってはならないということである。

道徳的な基準は、自分が何かを行うときの他への態度の規範であるが、それは当然、相手もそれに反応しやすく、何かをしやすいための配慮を含んでいなければならない。これが「みんなのためになるかどうか」であると考えられる。「好意と友情を深めるか」の判断で私的な感情が強くなり過ぎないように戒めているという解釈もできる。

ここで、四つのテストの起点である「真実かどうか」の「真実」について少し考えて見たいと思う。真実は、上にも述べたように、物事の根本原理、すなわち、互いに関連するいろいろな事実をうまく説明できる、あるいは、それらと合致する考え方である。時の経過とともに多くの正確な事実が蓄積されると、それらをつかさどる根本原理も少しずつ深まっていく。すなわち、真実は時代とともに深化していく。真実は、また、人によって異なることもある。同じ事実を知ったとしても、その人の経験や洞察力によって、それらを統一して説明できる概念、すなわち抽出できる根本原理、真実が若干違うこともありうる。その意味で、真実はその人の信念、あるいは、確信の性格を持つこともある。事実は、また、場所による偏りを示すこともある。したがって、それに基づく真実も場所によって多少の違いが出てくることになる。真実は、それに関わる人、時代、場所とともにある種のゆらぎを示しつつ、次第に深まり、非常に長い時間をかけて唯一つのものに収斂していくといえる。したがって、社会における行動の規範も、唯一つのものではなく、人、時代、場所とともにある種のゆらぎを示すものということになる。

四つのテストの基本は「真実かどうか」であるが、それが自己の信念のかたくなで偏狭な押し付けにならないように、短い言葉を組み合わせ、互いに相補わせることによって、実に上手に、道徳的規範という、考え様によっては堅苦しいことが、やさしく、穏やかに述べられている。四つのテストのそれぞれを個別のものとは考えずに、全体を一つに融合したものと捉えて、自分の言行を判断することが重要である



大阪ユニバーサルシティRC URL: <http://www.osaka-ucrc.org/> E-mai: ucrc@osaka-ucrc.org 創立: 2001年3月27日
事務局 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68 リーガロイヤルホテル401号室 TEL: 070-5020-6459
会長: 斎藤清貴 幹事: 三宅一郎 会報担当: 大橋高志 例会: 毎週 月曜日 12:30~13:30 リーガロイヤルホテル

4つのテスト / 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか